

30年の感謝を込めて・・・

感謝の会



5月23日(金) ウェスティンナゴヤキャッスル ~ 青雲の間 ~

「塾主と30年の歩みに感謝」

感謝の会は、遠山塾主の73回目の誕生日を祝うと共に、記念講演会、えんためばんばん祭と続き、青経塾誕生30周年を記念した会でもある。暗闇のキャンドルが灯る中、全員によるパースディソングの合唱で会は始まった。会場は、青経塾の誕生した当時のダンスホールを再現している。日本の経済は右肩上がり、活気に満ちた時代だ。しかし、人々は裕福になるにつれ、少しずつ大切なものを忘れていった。その一つが感謝ではないだろうか。「感謝を思いっきり表してほしい」と小池相談役のお言葉にあったように、今日はあらためて感謝について考える日である。



そして塾主が歌を披露して下さった。歌い終わると割れんばかりの拍手と、アンコールの音が響き渡る。塾主自らが感謝の気持ちを真剣に行動で示して下さった。この行動に対し、自分は感謝をどう表現したらいいのだろうか。「お客」になっていないだろうか。自問自答を繰り返す。何もできないまま時間だけが過ぎてゆく。会も終わる頃、塾主が作られた詞に曲をつけた、30周年記念遠山ソング「希望」を合唱。

新塾生の歌声に誰ともなく肩を組み、会場全体に歌の輪が広がった。それは塾主やこの会を運営したPJに対する感謝の気持ちを込めた熱唱だった。

30年前、中小企業を取り巻く環境は、3K、人材不足と決して豊かではなかった。しかし高度成長期の日本の中で、一生懸命、勤勉にコツコツと働けばいつかは儲かると皆信じていた。当時、誰が今の環境を予想できたであろうか。「30年に渡り、塾主は我々塾生にこの道を歩きなさい、とご指導いただきました」と川本副塾頭。原理原則は揺ぎ無く継承され、むしろ現代にはなくてはならないものとなっている。「基本は感謝です」と塾主がおっしゃるよう、自分の存在自体に感謝すると共に、今我々がこの場にいることができるのは、社員さん、家族のお陰であることを、決して忘れてはいけない。

相手に対し絶えず自分から行動する事がより多くの感謝を生み、より自分の人生に深み重みが増すのではないか。この日を機に絶えずギブ&ギブの姿勢で行動して行くことを誓った。

< 第29塾 鈴木大也 >

